

浜田市の中山間地域を中心に米軍機とみられる低空飛行が依然続き、市内全域において、日々、爆音や事故等の不安に悩まされています。自宅で病氣療養中や育児中の方、乳児や子供、高齢者にとって、突然聞こえてくる轟音は、極度のストレスを受け心身や生活に悪影響を与えて続けています。

最近では、毎日のように夜 22 時 30 分を過ぎる頃まで断続的な飛行音が続き、社会的弱者の皆さんはもとより、一般住民の皆さんも睡眠に悩まされ、我慢の限界をはるかに超え、とても許容できる状況にはありません。

また、6月27日には、当市旭町の「あさひ認定こども園」上空で、開所以来一番大きな飛行音で墜落してきたような轟音が鳴り響き、多くの子どもが耳を塞ぎ、うずくまって泣いている子どももいたとの苦情が寄せられました。旭支所上空での写真撮影とこの苦情の時間は一致しており、米軍機による低空飛行によるものであることは明らかであります。この低空飛行訓練により、子どもが「怖くて家から出たくない」、「今日は飛行機が飛ばなければいいな」などと訴え、精神的に不安定になり、何とかして欲しいと目を赤くして訴えられる保護者の方も多数おられます。

これまでも、本市は市民の不安の解消と騒音防止の観点から、低空飛行訓練中止を繰り返し要請してまいりましたが、回答の内容は、苦情の時間・場所にて、米軍機が訓練空域を使用していたことは認めるものの、「同米軍機は、訓練時において、合同委員会合意の所定の規則全般に従って訓練を実施していた。」と全く誠意がないものでした。

これまでの幾度とない要請にもかかわらず、一向に改善されない状況を鑑み、昨年末、当市旭支所屋上に騒音測定器を設置し、24時間測定を続けた結果、市内一ヶ所の測定結果でしかないにも拘わらず、最大値が 70 d B 以上を記録した日が 21 日もあり、計 200 回以上に及んでいます。最大測定値が 97.6 d B を記録した時もあり、地元住民に与える影響を最小限にするとはいとも言い難い状況にあります。

大使閣下におかれましては、自国の学校や福祉施設、医療機関上空を同様に飛行された場合を想像し、日々繰り返される低空飛行訓練によって、激しい騒音被害が平穏な生活を乱している実情と、米軍機による事故に対する不安の中で生活しているという市民の心情を自分たちのこととして考え、低空飛行訓練を中止することを強く要請します。

2012年7月20日

アメリカ合衆国

駐日本国特命全権大使 ジョン・V・ルース 様

日本国 島根県浜田市長 宇津 徹 男

浜田市の中山間地域を中心に米軍機とみられる低空飛行が依然続き、市内全域において、日々、爆音や事故等の不安に悩まされています。自宅で病氣療養中や育児中の方、乳児や子供、高齢者にとって、突然聞こえてくる轟音は、極度のストレスを受け心身や生活に悪影響を与えて続けています。

最近では、毎日のように夜 22 時 30 分を過ぎる頃まで断続的な飛行音が続き、社会的弱者の皆さんはもとより、一般住民の皆さんも睡眠に悩まされ、我慢の限界をはるかに超え、とても許容できる状況にはありません。

また、6月27日には、当市旭町の「あさひ認定こども園」上空で、開所以来一番大きな飛行音で墜落してきたような轟音が鳴り響き、多くの子どもが耳を塞ぎ、うずくまって泣いている子どももいたとの苦情が寄せられました。旭支所上空での写真撮影とこの苦情の時間は一致しており、米軍機による低空飛行によるものであることは明らかであります。この低空飛行訓練により、子どもが「怖くて家から出たくない」、「今日は飛行機が飛ばなければいいな」などと訴え、精神的に不安定になり、何とかして欲しいと目を赤くして訴えられる保護者の方も多数おられます。

これまでも、本市は市民の不安の解消と騒音防止の観点から、低空飛行訓練中止を繰り返し要請してまいりましたが、回答の内容は、苦情の時間・場所にて、米軍機が訓練空域を使用していたことは認めるものの、「同米軍機は、訓練時において、合同委員会合意の所定の規則全般に従って訓練を実施していた。」と全く誠意がないものでした。

これまでの幾度とない要請にもかかわらず、一向に改善されない状況を鑑み、昨年末、当市旭支所屋上に騒音測定器を設置し、24時間測定を続けた結果、市内一ヶ所の測定結果でしかないにも拘わらず、最大値が 70 d B 以上を記録した日が 21 日もあり、計 200 回以上に及んでいます。最大測定値が 97.6 d B を記録した時もあり、地元住民に与える影響を最小限にするとはとても言い難い状況にあります。

貴職におかれましては、自国の学校や福祉施設、医療機関上空を同様に飛行された場合を想像し、日々繰り返される低空飛行訓練によって、激しい騒音被害が平穏な生活を乱している実情と、米軍機による事故に対する不安の中で生活しているという市民の心情を自分たちのこととして考え、低空飛行訓練を中止することを強く要請します。

2012年7月20日

アメリカ合衆国

海兵隊 岩国航空基地司令官

ジェームス・C・スチュワート大佐 様

日本国 島根県浜田市長 宇津徹 男

外務大臣 玄葉 光一郎 様

## 米軍機による低空飛行訓練中止の要請について

浜田市の中山間地域を中心に米軍機とみられる低空飛行が依然続き、市内全域において、日々、爆音や事故等の不安に悩まされています。自宅で病気療養中や育児中の方、乳児や子供、高齢者にとって、突然聞こえてくる轟音は、極度のストレスを受け心身や生活に悪影響を与えて続けています。

最近では、毎日のように夜 22 時 30 分を過ぎる頃まで断続的な飛行音が続き、社会的弱者の皆さんはもとより、一般住民の皆さんも睡眠に悩まされ、我慢の限界をはるかに超え、とても許容できる状況にはありません。

また、6月27日には、当市旭町の「あさひ認定こども園」上空で、開所以来一番大きな飛行音で墜落してきたような轟音が鳴り響き、多くの子どもが耳を塞ぎ、うずくまって泣いている子どももいたとの苦情が寄せられました。旭支所上空での写真撮影とこの苦情の時間は一致しており、米軍機による低空飛行によるものであることは明らかであります。この低空飛行訓練により、子どもが「怖くて家から出たくない」、「今日は飛行機が飛ばなければいいな」などと訴え、精神的に不安定になり、何とかして欲しいと目を赤くして訴えられる保護者の方も多数おられます。

これまで、本市は市民の不安の解消と騒音防止の観点から、低空飛行訓練中止を繰り返し要請してまいりましたが、回答の内容は、苦情の時間・場所にて、米軍機が訓練空域を使用していたことは認めるものの、「同米軍機は、訓練時において、合同委員会合意の所定の規則全般に従って訓練を実施していた。」と全く誠意がないものでした。

これまでの幾度とない要請にもかかわらず、一向に改善されない状況を鑑み、昨年末、当市旭支所屋上に騒音測定器を設置し、24時間測定を続けた結果、市内一ヶ所の測定結果でしかないにも拘わらず、最大値が 70 d B 以上を記録した日が 21 日もあり、計 200 回以上に及んでいます。最大測定値が 97.6 d B を記録した時もあり、地元住民に与える影響を最小限にするとはとても言い難い状況にあります。

貴職におかれましては、日々繰り返される低空飛行訓練によって、激しい騒音被害が平穏な生活を乱している実情と、米軍機による事故に対する不安の中で生活しているという市民の心情を自分たちのこととして考え、低空飛行訓練を中止するよう、米軍等の関係機関に申し入れることを強く要請します。

平成 24 年 7 月 20 日

島根県浜田市長 宇津 徹 男

防衛大臣 森本 敏 様

## 米軍機による低空飛行訓練中止の要請について

浜田市の中山間地域を中心に米軍機とみられる低空飛行が依然続き、市内全域において、日々、爆音や事故等の不安に悩まされています。自宅で病氣療養中や育児中の方、乳児や子供、高齢者にとって、突然聞こえてくる轟音は、極度のストレスを受け心身や生活に悪影響を与えて続けています。

最近では、毎日のように夜 22 時 30 分を過ぎる頃まで断続的な飛行音が続き、社会的弱者の皆さんはもとより、一般住民の皆さんも睡眠に悩まされ、我慢の限界をはるかに超え、とても許容できる状況にはありません。

また、6月27日には、当市旭町の「あさひ認定こども園」上空で、開所以来一番大きな飛行音で墜落してきたような轟音が鳴り響き、多くの子どもが耳を塞ぎ、うずくまって泣いている子どももいたとの苦情が寄せられました。旭支所上空での写真撮影とこの苦情の時間は一致しており、米軍機による低空飛行によるものであることは明らかであります。この低空飛行訓練により、子どもが「怖くて家から出たくない」、「今日は飛行機が飛ばなければいいな」などと訴え、精神的に不安定になり、何とかして欲しいと目を赤くして訴えられる保護者の方も多数おられます。

これまで、本市は市民の不安の解消と騒音防止の観点から、低空飛行訓練中止を繰り返し要請してまいりましたが、回答の内容は、苦情の時間・場所にて、米軍機が訓練空域を使用していたことは認めるものの、「同米軍機は、訓練時において、合同委員会合意の所定の規則全般に従って訓練を実施していた。」と全く誠意がないものでした。

これまでの幾度とない要請にもかかわらず、一向に改善されない状況を鑑み、昨年末、当市旭支所屋上に騒音測定器を設置し、24時間測定を続けた結果、市内一ヶ所の測定結果でしかないにも拘わらず、最大値が 70 d B 以上を記録した日が 21 日もあり、計 200 回以上に及んでいます。最大測定値が 97.6 d B を記録した時もあり、地元住民に与える影響を最小限にするとはとても言い難い状況にあります。

貴職におかれましては、日々繰り返される低空飛行訓練によって、激しい騒音被害が平穏な生活を乱している実情と、米軍機による事故に対する不安の中で生活しているという市民の心情を自分たちのこととして考え、低空飛行訓練を中止するよう、米軍等の関係機関に申し入れることを強く要請します。

平成 24 年 7 月 20 日

島根県浜田市長 宇津 徹 男